

## 4. 定点把握対象感染症患者報告状況（月報）

### （1）過去5年間の報告状況

疾患名	2018年 (平成30年)	2019年 (令和元年)	2020年 (令和2年)	2021年 (令和3年)	2022年 (令和4年)
性器クラミジア感染症	274	284	255	274	260
性器ヘルペスウイルス感染症	277	257	178	177	117
尖圭コンジローマ	86	79	75	65	60
淋菌感染症	42	59	47	55	60
性感染症報告数 小計	679	679	555	571	497

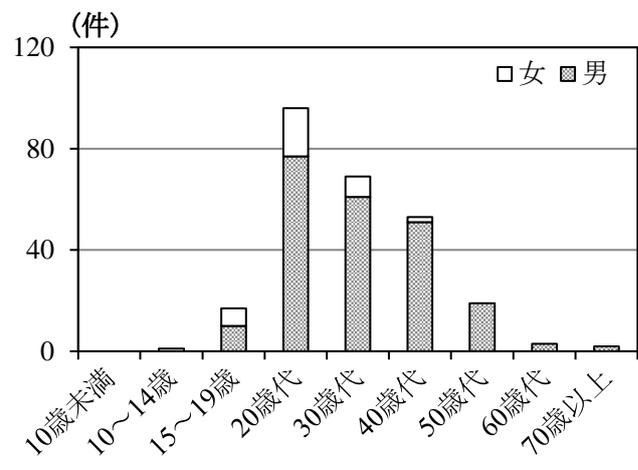
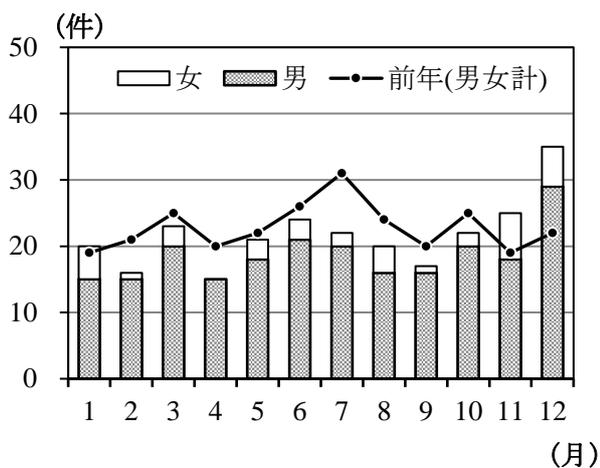
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	258	276	269	209	252
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	3	3	1	0	0
薬剤耐性緑膿菌感染症	0	3	2	0	1
薬剤耐性菌感染症報告数 小計	261	282	272	209	253

### （2）性感染症患者報告状況

性感染症の総報告数は497件で、前年（571件）より減少した。性別では、男性346件（前年397件）、女性151件（前年174件）と、前年と比べ男性・女性ともに減少した。疾患別では、性器クラミジア感染症（52.32%）の割合が非常に多く、次いで性器ヘルペスウイルス感染症（23.54%）の割合が多かった。尖圭コンジローマ（12.07%）と淋菌感染症（12.07%）は同数であった。

#### ① 性器クラミジア感染症

【性器クラミジア感染症の月別患者報告数と年齢別患者報告数】



年間報告数は260件と、前年（274件）より減少した。過去5年間の年間報告数も約260～280件と、ほぼ横ばいで推移している。

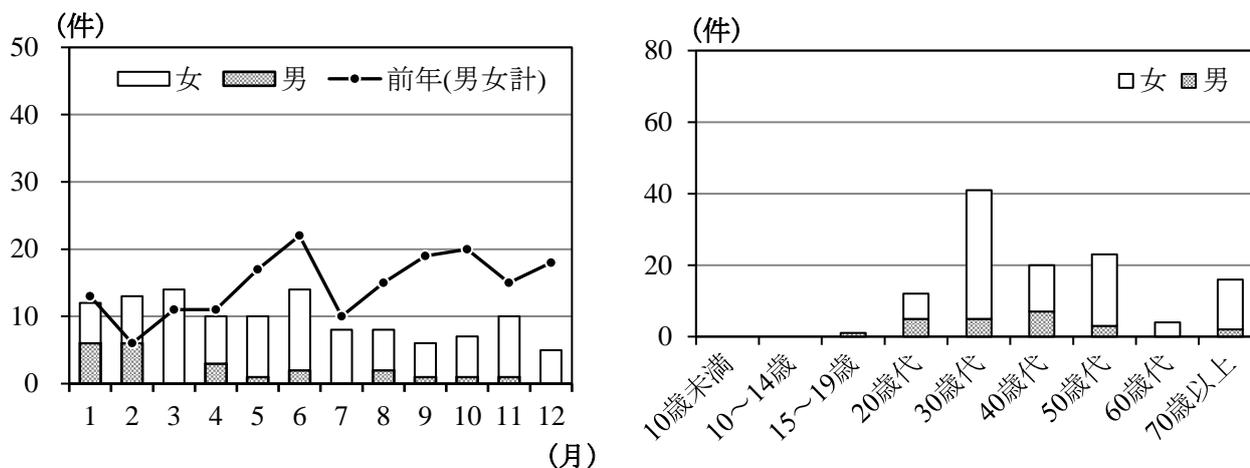
本疾患はわが国で最も多い性感染症であり、年々増加している。性活動に活発な若年層に多いが、女性は感染しても自覚症状に乏しいため、診断治療に至らないことが多いとされている。

月別報告数では季節的な特徴は認められず、年間を通じて発生した。性別では、男性 223 件（前年 235 件）、女性 37 件（前年 39 件）と、男性・女性ともに前年より減少し、男性（約 86%）の割合が高かった。

年齢層別報告数では、10 歳未満 0%、10 歳代 6.92%、20 歳代 36.92%、30 歳代 26.54%、40 歳代 20.39%、50 歳以上 9.23%と、20～30 歳代からの報告が多かった。

## ② 性器ヘルペスウイルス感染症

【性器ヘルペスウイルス感染症の月別患者報告数と年齢別患者報告数】

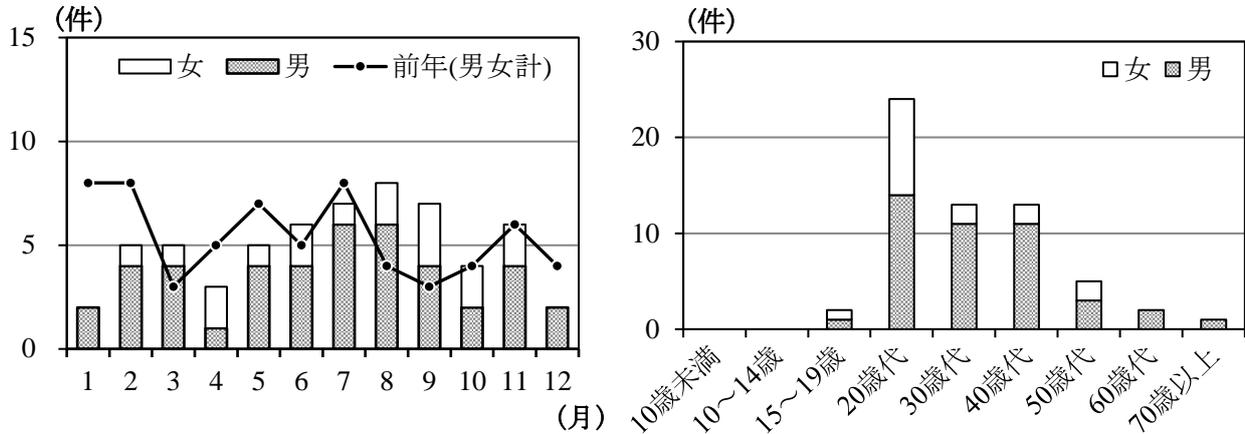


年間報告数は 117 件と、前年（177 件）より減少した。月別報告数推移でも、月毎に増減はあったものの季節的な特徴は認められず、年間を通じて発生した。性別では、男性 23 件（前年 61 件）、女性 94 件（前年 116 件）と、男性・女性ともに減少した。また性感染症全体では男性の報告数が多いが、本疾患は女性が約 80%を占めるなど、他の疾患に比べ女性の割合が高いのが特徴である。

年齢層別報告数は、10 歳未満 0%、10 歳代 0.85%、20 歳代 10.26%、30 歳代 35.04%、40 歳代 17.09%、50 歳代 19.66%、60 歳代 3.42%、70 歳以上 13.68%と、20～50 歳代が多かったものの、幅広い年齢層で発生した。また、60 歳以上からの報告数が 17.10%と他の性感染症と比較して多い傾向が認められたが、本疾患の原因となる単純ヘルペスウイルスは一度感染すると神経節に潜伏し、長年にわたって再発を繰り返すため、再燃の可能性も考えられる。

③ 尖圭コンジローマ

【尖圭コンジローマの月別患者報告数と年齢別患者報告数】

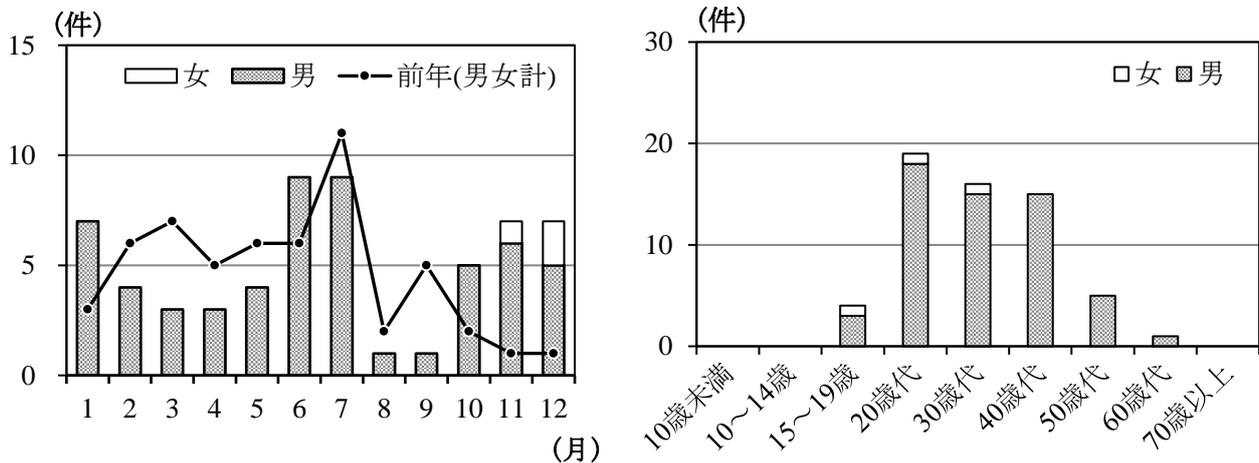


年間報告数は60件と、前年（65件）より減少した。性別では、男性43件（前年53件）、女性17件（前年12件）と、男性は前年より減少したが、女性は前年より増加した。全体では男性（約72%）が多くを占めた。

患者の大部分は性活動の活発な年代であり、年齢層別報告数は、10歳未満0%、10歳代3.33%、20歳代40.00%、30歳代21.67%、40歳代21.67%、50歳代8.33%、60歳以上5.00%と、20~40歳代の報告が多かった。

④ 淋菌感染症

【淋菌感染症の月別患者報告数と年齢別患者報告数】



年間報告数は60件と、前年（55件）より増加した。性別では、男性57件（前年48件）、女性3件（前年7件）と性器クラミジア、尖圭コンジローマと同じく男性からの報告が多く、95%を占めた。

年齢層別報告数は、10歳未満0%、10歳代6.66%、20歳代31.67%、30歳代26.67%、40歳代25.00%、50歳代以上10.00%であった。20~40歳代の割合が高く、全体の約83%を占めた。

淋菌感染症は全国でも2018年以降増加しており、2021年の報告数は10,000件を超えた。この中で女性の数が男性より極端に少数であることについては、女性の自覚症状が乏しく受診の機会が少ないことが要因の一つと考えられる。淋菌の感染によりHIVウイルスの感染が容易になるとの研究報告もあり、

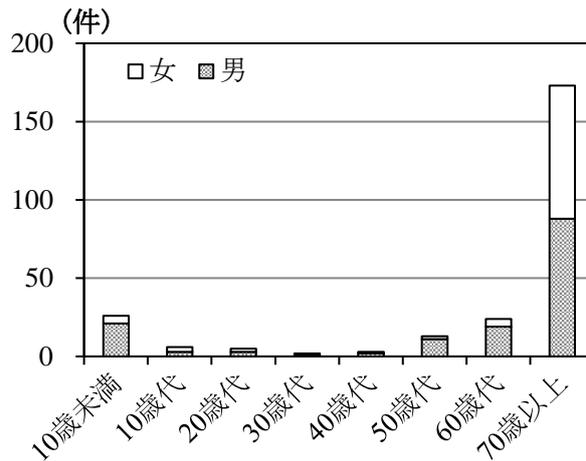
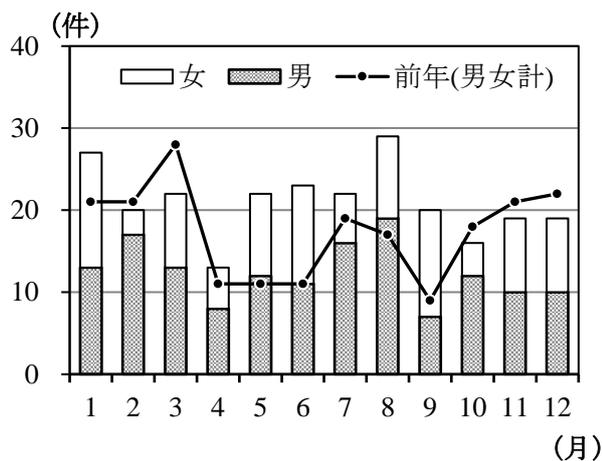
今後も動向を注視すべき疾患である。

(3) 薬剤耐性菌感染症患者報告状況

薬剤耐性菌感染症の総報告数は 253 件で、前年 (209 件) から増加した。疾患別の報告数においては、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症の割合が 99.6% を占めた。

① メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

【メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症の月別患者報告数と年齢別患者報告数】

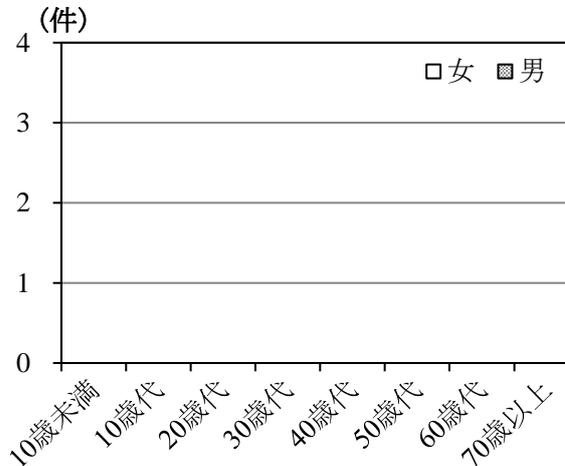
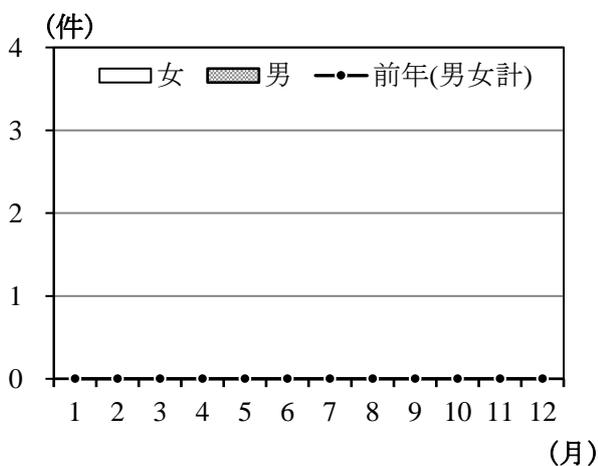


年間報告数は 252 件であり、前年 (209 件) より増加し、性別では、男性 148 件、女性 104 件と、男性が多かった。月別報告数では、月毎に増減はあったものの季節的な特徴は認められず、年間を通じて発生した。

年齢層別報告数は、10 歳未満 10.32%、10 歳代 2.38%、20 歳代 1.98%、30 歳代 0.79%、40 歳代 1.20%、50 歳代 5.16%、60 歳代 9.52%、70 歳以上 68.65% と、70 歳以上の報告が多かった。

② ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

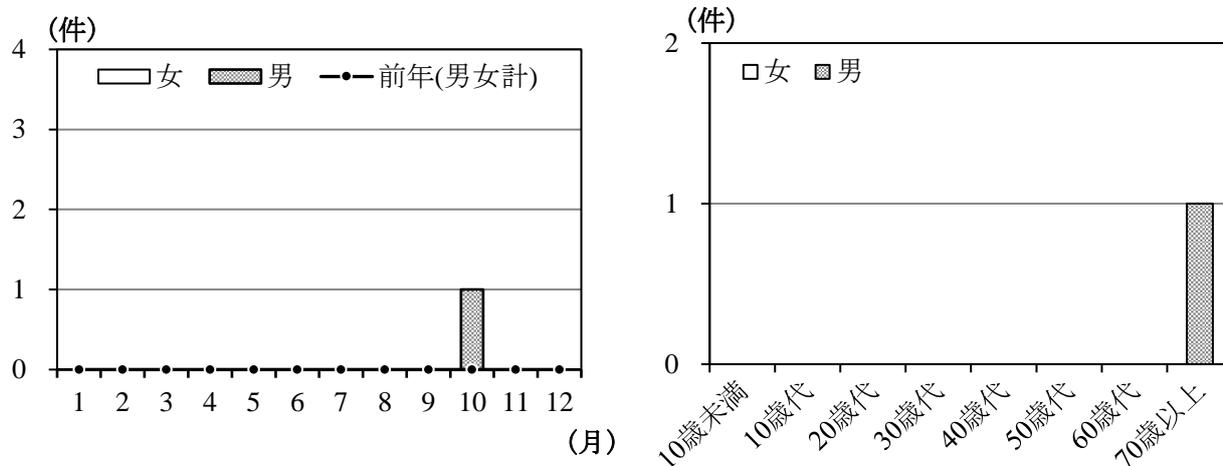
【ペニシリン耐性肺炎球菌感染症の月別患者報告数と年齢別患者報告数】



本年は報告がなかった。過去 5 年では、0~3 件で推移している。

③ 薬剤耐性緑膿菌感染症

【薬剤耐性緑膿菌感染症の月別患者報告数と年齢別患者報告数】



年間報告数は1件（前年0件）であった。過去5年では、毎年0～3件で推移している。